

外遊決定す

—立身からレジャーまで 海外旅行ガイドブックの変遷—

平成10年6月29日～7月24日

もうすぐ夏休み。海外旅行に出かける方も多いと思います。いまや海外旅行は国内旅行とさほど変わらない気軽さで出かけることのできる、レジャーの一つです。しかし、鎖国がとかれてすぐのころはどうだったでしょうか。西洋がまだまだ憧れの地だったころ。第二次大戦後、外貨持ち出し制限のため観光目的では海外に行けなかったこともあり、また。“外遊”が決定したとなればそれは一大事、饞別をもらい盛大な送別会で送り出されたものです。

今回は、そんな時代から現代まで、当館所蔵の海外旅行ガイドブックをご紹介します。海外旅行の歴史をたどるとともに、また一方で時代を越えて共通する、あふれんばかりの海外への憧れが見えてくることでしょう。海のむこうへ行きたい！ 外国をこの目で見てみたい！ そんな万人共通の思いをも探ります。

展示資料一覧

<>内は当館請求記号

*** I. 戦前の海外渡航***

明治初期は西洋がお手本ということで、外遊してきた人の著作が多く読まれたようであるが、さすがにガイドブックはあまりない。ガイドブックで最初に登場するのは、移住や留学が目的のもの。その後次第に観光目的でも旅行にでかけるようになる様がガイドブックの変遷から見てとれる。

【故郷に錦を：海外渡航の始まり】

観光旅行で外国に出かけるのは大金持ちにしかできなかった頃、それ以外の人々は、事業を興す

ため、学問を修めるため、といった理由で日本を旅立った。しかし未知なる土地への憧れの気持ちは同じである。

1. 海外立身の手引

渡辺四郎編

<YDM41430>

東京 雲梯舎 明35(1902)年

留学、移住、労働に関する法律も掲載。文中「新潟県下越後人は忍耐強く寡言にてし腕力を勤め最も海外移民に適し…」と移民を薦めている。なぜ新潟の人だけ??また「米国は労働賃金の高価なること日本に比較れば殆ど十倍余に当る」という記述は、現代の日本がアジア各国の出稼ぎ先になっていることと隔世の感である。

2. 海外苦学案内

藤本西洲, 秋広秋郊著

<YDM46165>

東京 博報堂 明37(1904)年

米国留学の案内書。苦学生からの便りも掲載。「白骨となってこの土の鬼となるか(中略)小生も必死と今より勉強致すべく候。」並々ならぬ決意で出かけた時代だった。

3. 最新海外渡航と職業の手びき

竹井十郎編

<590-341>

東京 海外社 昭和5(1930)年

主に南米、南洋の渡航案内と職業紹介。「男子須く万里の波濤を蹴って、廣芒限りない海外の新天地に雄飛したいと勇心勃勃禁じ能はない」と前書きにあり。

【ふらんすへ行きたしと思へども：憧れの西洋文明】

西洋文明に憧れてはいても、実際に「外遊」「洋行」することができたのはごく小数のものだったため、ガイドブックも実際に使用する案内書というよりは、読み物として楽しむ旅行記風である。

4. 米国旅行案内

上村知清著

<384-112>

東京 新光社 大正8(1919)年

「米国とはどんな国? 政治は共和民主の両党によって行はるるデモクラシーの国、黄金の有り余る国、宗教は基督教を標榜する国、教育は自由研究と男女混合を主とする国、女の威張る国、嬖天下の国、胃病の流行する国、…」主観的な記述が個性的。

5. 欧洲旅行案内

上村知清著

<556-229>

東京 海外旅行案内社 昭和2(1927)年

「狹隘固陋な国家的領域観念を脱し同胞の海外雄飛の機運を促し、而して国際的共存の発展を計らむ為に本社は生まれました」とはその名も『海外旅行案内社』の巻頭言。

6. 欧羅巴案内

馬郡健次郎著

<587-314>

東京 内外社 昭和7(1932)年

「英吉利人氣質、伊太利人氣質」など、観光案内のみならず、各国文化紹介もあり。

【線路は続くよどこまでも：シベリア鉄道】

当時ヨーロッパへ至る道はシベリア鉄道と航路であった。

7. 西比利亜鉄道旅行案内

東京 万国寝台急行列車会社 明44(1911)年

<YDM26742>

巻末に「旅行中実用露語」と、なぜか英文の日本観光案内が収録されている。

8. 西伯利鉄道旅行案内

鉄道院運輸局編

<384-105>

〔東京〕 鉄道院 大正8(1919)年

各鉄道の長さや建設費までのべられ、観光書というより鉄道主体の記述。鉄道沿線の都市の地誌も紹介されている。ロシア革命後の出版のため、「極東に於ける活動の中心人物」という記事があるのも興味深い。

9. 西伯利經由欧洲旅行案内

鉄道省運輸局編

<590-180>

東京 鉄道省運輸局 昭和4(1929)年

【身近な異文化：大陸旅行】

西洋に比較して、中国・朝鮮は実際に旅行する人が多かったのであろう。ガイドブックも実用的なものが多い。また、内容のそこそこに「遊学」というよりは「視察」というニュアンスが感じられ、「植民地」「大東亜共栄園」といった背景を無視することはできない。

10. 旅行必用日韓清対話自在

太刀川吉次郎編

<YDM82568>

東京 鳳林館 明27(1894)年

日本語と朝鮮語、日本語と中国語の対話集。カタカナ書きを読み上げるだけで本当に通じたのだ

ろうか。テーマ別に並べてあるが、「軍事に関する会話」というのが特異だ。

11. 台湾鉄道旅行案内

台湾総督府交通局鉄道部編 <386-252>

台北 台湾総督府交通局鉄道部 昭和2(1927)年

台湾の鉄道と旅行について。料金などの記述が実用的である。

12. 朝鮮旅行案内記

朝鮮総督府鉄道局編 <647-127>

〔京城〕 朝鮮総督府鉄道局 昭和9(1934)年

写真と地図が豊富。民俗風習なども述べられている。「スキーとキャンプ」という記事からも、身近な旅行地であったことがわかる。

13. 朝鮮・満洲・支那大陸視察旅行案内

東文雄著 <792-10>

東京 東学社 昭14(1939)年

著者の見聞記が主だが、観光地の写真と解説が同ページに載っていて見やすい編集。「支那に行って一攫千金を夢見るやうな野心家」には不向きと前書きにある。

14. 南洋旅行案内

伊藤友治郎編 <639-152>

東京 南洋専修学校出版部 昭和8(1933)年

日本領も含めて香港・フィリピン・インドネシア等を紹介。前書きにかえて「南洋の群島は黄金の国だ、四時花咲き実の結ぶ国だ。黎明の国だ、自由の天国だ。行け！ 南洋は我が民族の腕と鉄に依って建つべき国だ。」といった詩を掲載。

*** II. 戦後の渡航規制時代***

戦後、復興がなるまで輸入を抑えるという貿易統制のため、海外旅行も商用や留学を除いては禁止されていた。その点では戦前よりも海外旅行は不自由だったのである。しかし経済が成長するとともに、貿易統制も必要なくなり、海外旅行自由化への期待も高まっていく。ここでは自由化を控えた時期の期待にあふれるガイドブックを紹介する。

15. アメリカ旅行手帖

磯部佑一郎著 <295.309-I697a>

東京 ダイヤモンド社 昭和30(1950)年

「国家運営の諸機能は、もってわれわれが範とすべきことが非常に多い」と、アメリカにならない、アメリカに憧れる気持ちがあらわれている。

16. 海外旅行 ABC

三上操著

<290.9-M462k>

東京 社会思想研究会出版部 昭和36(1961)年 (現代教養文庫)

著者は、100万円で35日間、仕事がらみでヨーロッパにでかけたビジネスマン。「外遊決定す」という小見出しに、意気込みが感じられる。

17. 海外旅行への手引 ユニバーサル・サービス

1巻1号 表紙 昭和37(1962)年1月

<Z33-189>

非売品として会社や団体に配布されたもの。

18. 世界旅行あなたの番

蜷川譲著

<290.9-N722s>

東京 二見書房 昭和38(1963)年

値段別に行き先を指定し、3~4万円の沖縄、ホンコン、マカオから40~50万円のアメリカ、メキシコまで解説。「世界はあなたを待っている」「観光も立派な旅行の目的であることを知るべきである」等々、いよいよ海外に行けるという具体的な期待があらわれている。

19. 海外旅行第一歩 旅装・エチケット・etc

東京 珊瑚書房 昭和39(1964)年 (暮しの夢シリーズ)

<290.9-Sa594k>

20. 『観光渡航の自由化本決まり』

海外旅行情報 日本交通公社海外旅行部 半月刊

<Z290.9-Ka1>

6巻12号 p.2 昭和38(1963)年12月号

500ドルまで持ち出し可という条件つきで自由化が決定。500ドルは約18万円、10日から15日ぐらいが適当とのこと。

*** III. 規制緩和後の海外旅行の広がり ***

規制が緩和されると同時に急速に海外旅行人口は増えていった。まさに堰を切ったようにといったところ。当初は西洋文化に馴染むためのマナー集なども多く、団体旅行指向といい、まだまだ不安が感じられるが、次第に様々な目的をもって、かつては旅行を躊躇していたような人も、海外に出かけてゆく様子が感じられる。より自由に、より楽に、より好

き勝手に。海外への憧れは、制約がなくなればなくなるほど、思う存分多様化していくの
だろう。

【団体旅行のススメ】

21. 『ハワイ観光団帰国の声』

海外旅行情報 日本交通公社海外旅行部 半月刊 <Z290.9-Ka1>
7巻5号 p.3 昭和39(1964)年5月号

自由化後最初の観光旅行は、日本交通公社が企画したヨーロッパツアー。第2弾としてハワイに
でかけた観光団の報告が、日本交通公社の雑誌に掲載された。

22. 『海外旅行モデルケース』

旅 日本交通公社出版事業局 [編] 日本交通公社出版事業局 月刊 <Z8-24>
38巻4号 p.159 昭和39(1964)年4月号

「海外旅行の開幕！ 未知の世界へのあこがれを実現」という記事につづけて掲載。

23. 『団体旅行を有意義に利用』

海外旅行手帖 森谷トラベル・エンタプライズ 佐藤一男 <Z33-190>
3巻10号 p.19 昭和40(1965)年

「私は旅慣れてないから、外国旅行なんて・・・などと消極的に考えておられる方は、一人でも
参加できる団体旅行を利用する事です。」

【世界は二人のため：海外ハネムーン、海外ウエディング】

24. 海外結婚式とハネムーンガイド

木島健著 <Y77-2134>
東京 主婦と生活社 昭和48(1973)年

スイスの小さな教会で式をあげた著者。「大安吉日のホテルの結婚式ラッシュ風景はこの厳粛な
誓いの場と遠いものであると感じている人たちのために」この本で新しい結婚式を提案。

25. 海外ハネムーン プランづくりから現地ガイドまで

東京 パン・ニューズ・インターナショナル 昭和52(1977)年 <Y77-3868>
(パン・トラベル・ガイド)

ハネムーンナーの三分之一が海外にでけるとのこと。そのうち1位2位はグアムとハワイである。

【女一人旅】

26. サラリーガールのヨーロッパ旅行

服部はる子著 <Y77-1436>

東京 白陵社 昭和45(1970)年

27. 地球は狭いわよ 女のひとり旅講座 増補改訂版

おそどまさこ著

<Y77-3699>

トラベルブティック747 山と溪谷社発売

昭和53(1978)年

20代の女性が自費出版したもので、反響も大きかったようだ。

【パック旅行なんてクソクラエ！：個人旅行の時代】

自由化直後は、不慣れな海外旅行で恥をかくことが怖いのか団体旅行が人気であったが、海外旅行が一般的になるにつれ、団体旅行の一律さを嫌い個性的な旅を求める動きが、若者を中心として生まれていった。

28. パック旅行なんてくそくらえ

室謙二 芝生瑞和共著

<Y77-3684>

東京 鎌倉書房 昭和53(1978)年

パック旅行を「集団的に管理された仲間うちの“宴会の旅”」と批判。

29. 『1日5ドルで世界を歩こう』

コスモポリタン 世界ケチケチ旅行研究会

<Z5-B5>

1号 p.2-3 昭和46(1971)年

個人で海外旅行をした若者たちが集まり、これから個人で海外へ行こうとしている人へアドバイスをする団体を発足。その機関誌。

30. 地球の歩き方 ヨーロッパ編 1980版

ダイヤモンド・スチューデント友の会編

<Y77-4142>

東京 ダイヤモンド・ビッグ社 昭和54(1979)年

今では個人旅行の代表的なガイドブックである「地球の歩き方」の初版。「次のページに白地図がある。行ってみたい都市、ちょっと気になる町に○をつけて、太い線で結んでみよう。もうキミのヨーロッパ旅行のルートができた。」

31. AB・road 自由旅行

リクルート [編] リクルート 1巻1号 平成9(1997)年

<Z8-B610>

「AB・road」は、1984年に各旅行会社の団体旅行をまとめて紹介する情報誌として創刊されたが、その姉妹誌として、航空券のみ、ホテルのみ、といった個人旅行用に本誌が創刊された。「直行便のない(少ない)都市への主要ルート [アフリカ編]」などという記事に、団体旅行では行かない

ような旅先への指向が見られる。

【目的はさまざま】

《趣味のためならどこへでも》

32. 世界カジノの旅

山口浩著

<Y77-2215>

東京 ワールド・フォト・プレス 三修社(発売) 1973

各国のカジノ場、ゲームの仕方を解説。

33. 世界の競馬場 2 オーストラリア・ニュージーランド・香港・マカオ

ハイランド真理子著

<Y77-G1406>

東京 中央競馬ピーアール・センター 平成6(1994)年 (PRC guide books)

競馬場のみならず、サラブレッドの生産地やセリ場まで紹介。

《お買い物》

34. 若い旅行者の買い物ヨーロッパ ロンドン・パリ・ローマ

小林泰彦著

<Y77-3003>

東京 日本交通公社出版事業局 昭和50(1975)年

35. 香港ショッピング事典

百葉編集室企画・製作 東京 洋泉社 昭和63(1988)年

<Y77-E433>

《世界の味を求めて》

36. 五カ国語メニュー・ブック ヨーロッパ編

東京 日本交通公社出版事業局 昭和57(1982)年

<Y77-5416>

(交通公社のワールドガイド)

メニューの見方、選び方から、各国の食文化まで。「メニュー用語事典」もあり。

《美術館めぐり》

37. ヨーロッパの美術館・博物館 改訂3版

東京 日本交通公社出版事業局 昭和57(1982)年

<Y77-5563>

(交通公社のワールドガイド)

作品別索引つき。

《乗り物》

38. ヨーロッパの鉄道旅行 改訂5版
東京 日本交通公社出版事業局 昭和57(1982)年 <Y77-5508>
(交通公社のワールドガイド)

39. 地球の歩き方 旅マニュアル404 世界のクルーズ
「地球の歩き方」編集室編 <Y77-E1224>
東京 ダイヤモンド・ビッグ社 平成3(1991)年

《泊まる》

40. 泊まってみたいヨーロッパのプチホテル ローマとイタリアの
ルネッサンス都市(地球の歩き方503) 改訂2版
地球の歩き方編集室著作編集
東京 ダイヤモンド・ビッグ社 平成6(1994)年

《お城》

41. ヨーロッパ古城巡りの本
東京 近畿日本ツーリスト 平成4(1992)年 (旅のガイドムック31) <Y77-E3335>

《働くこと=遊ぶこと》

42. ワーキング・ホリデーの本 オーストラリア・ニュージ
ランド・カナダで働きながら遊び学ぶ 1992~1993
東京 ビクター音楽産業 平成3(1991)年 (ビクター・ブックス) <Y77-E4506>
エンジョイしながら海外で働くことがメイン。「海外立身の手引き」から幾星霜。ほんの百年足
らずでずいぶん違う。

【私たちだって旅行に行きたい！】

43. 障害者の地球旅行案内
おそどまさこ著 <GA93-G22>
東京 晶文社 平成8(1996)年

35. 「地球は狭いわよ」の著者が「一生旅し続けるにはどうしたらいいか？」と考えた結果、障
害者の旅の支援にいきついたという。障害者が旅行するためのいろいろなノウハウ、ちょっとした
工夫など。

44. ヨーロッパに夢中！子連れ旅ガイド
おそどまさこ著 <Y77-8340>

東京 地球は狭いわよ 山と溪谷社発売 昭和62(1987)年
(地球は狭いわよガイドブックシリーズ)

子連れで旅行する工夫をはじめとして、読者の体験記も掲載し、子連れ海外旅行で子供と向き合う格別の喜びを提唱。

◎請求記号が YDM ではじまる資料は、マイクロ資料でのご利用になりますので、展示期間中でもご利用になれます。

国立国会図書館 03-3581-2331(代)

ホームページアドレス <http://www.ndl.go.jp>

■国立国会図書館 ■□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□■03(3581)2331■